

PTA総会

5月8日(日)にPTA総会を実施しました。授業参観及び、進路講演会も行いました。

香川会長を中心とした新しい体制が発足し、「BE HERE NOW」今、出来ることを全力で!!」を目標として、コロナ禍でも前向きに活動を行うことができました。

会員の皆様ありがとうございました。



公開授業

11月18日(金)人権・同和教育ホームルーム活動の公開授業がありました。

各学年の代表3クラスで、来賓の方をお招きして公開授業として実施しました。



自分の周りに目を向けよう、様々な人権問題を考える、人権の歴史、水平の旗ひるがえる、結婚差別の解消に向けてのテーマのもと、身のまわりの差別に気付く感性を高め、差別のない社会をつくるために何ができるかについて積極的に話し合いました。

意見交換会では、市内の関係機関や学校・PTAの方から貴重な御意見やアドバイスをいただきました。

ボランティア活動

11月3日(日)ボランティア生徒8名で、第6回目となる「民藝さんぽ」に参加しました。Salto Gallery株式会社徳永有加様、石川宏味様の御指導の下、運営本部の実施統括に3名、五百亀記念館エリアで生徒4名が駐車場の整理や来場者のカウンタ、MAPの配布、来場者アンケートへの回答に携わりました。

お陰様で天気にも恵まれ、787名の皆様に御来場いただいたことに感謝します。大変お忙しい中、文化施設三館を視察していただいたS先生、蚤の市/チャリティブースに貢献していただいたA先生の後押しで最後の片付けまで頑張ることができました。これからも西条市の活性化について考え、行動していきたいと思っております。



【感想】

「文化施設三館(愛媛民藝館、西条郷土博物館、五百亀記念館)及び、三館前のお堀端で、歴史と文化、水景観を核にエリア全体の賑わいづくりを行う」という事業目的の将来を担う高校生が積極的に貢献できたと思う。

これからも私たちにできるローカルアクション「小さな町おこし」(Small Promotion of towns by Volunteer Spirit)に主体的に取り組んでいきたい。



編集後記

「コロナの影響で普通の高校生が送れなかった3年生。青春は蜜よく耐えました!!」これからも応援しています。

戸田 潤二郎

本年度は、「コロナ感染対策をしながら学校行事が開催でき、生徒の楽しそうな姿が見られて嬉しかったです。」

曾我 史子

「コロナ禍での行事開催少しくも子ども達に楽しい思い出をと運動会や小松高祭が行えたこと本当に嬉しく思いました。」

曾我部 詠美子

「コロナ禍の続く学校生活でしたが、生徒たちの健闘や笑顔でこの一年を振り返ってもらえると嬉しいです。」

平塚 善子

「あまり多くはお手伝いできませんでしたが、コロナ禍で色々制限された中でも懸命に活動する生徒や先生方の姿を見ることができてとても感銘を受けました。もう少ししたと思います。早く普通の生活に戻って笑顔が弾ける毎日が送れることを切に願います。ありがとうございました。」

月岡 央時



発行所 小松高等学校 教務部
編集責任 PTA文庫 総務厚生



校章の由来
松に囲まれた小松高校を抽象化した松の絵に小松の「小」と「高」を配した。

積微力行



今年のPTA活動を振り返って

PTA会長 香川 唯信



今年度もあと少しで終わろうとしています。日頃より保護者の皆様には、PTA活動に対し御理解と御協力を頂いております。より感謝申し上げます。

また、教職員の方々には様々な活動に積極的に御協力いただいておりますこと、御礼申し上げます。

今年度のPTA活動の目標として、日々変わって行く新型コロナウイルスの感染状況において、本校PTA活動においてもなかなか判断が出来ない中で出来る活動かけがえのない時間とし、様々な活動を通じて生徒達や会員の皆様、役員や教職員の皆様と交流の場としたい、学校行事や部活動の応援や支援を一所懸命に取り組みみたいと思ひ、「BE HERE NOW」今、出来ることを全力で!!」としました。

第2回の竹林整備は七月の暑い中、PTA役員の皆様と生徒と教職員の方々で校内清掃活動のあとに「キヤッチザビートル」と銘打って、第1回の竹林整備で伐採した竹をチップして作った培養土の中で育った「カフトムシ」、クワガタを招待した小学生と高校生で協力して捕獲するイベントを行いました。高校生が無心に土をほじくり返して、童心に返ってカフトムシを探している様を見て、思わず笑みがこぼれました。

同月に第64回全国・四国地区高等学校PTA連合大会愛媛大会が開催されました。PTA役員と教職員の方々と小松高校から県民文化会館までマイクパスで向かい、参加しました。今治夢スポーツ代表の岡田武史氏の講演から始まり、高校生による学校紹介、発表校のPTA役員による研究協議、松山中央高校吹奏楽部による吹奏楽演奏、どれも素晴らしい内容で感動したのを覚えています。

9月の体育大会は3年生保護者とPTA役員の皆様の有観客で行われました。お盆明けからコロナの感染者が増え、愛媛でも連日感染者が三千人

を超えるようになりました。その中、みんなで集まることが出来ず、体育祭でPTAが何を行うかを決めることが出来ませんでした。グループLINEなどで話しあって、体育大会の一週間前に打ち合わせを開き、当日のジュース販売の段取りを行いました。体育大会当日は大盛況で準備したジュースも完売したということで、PTA役員の皆様の判断、行動力に驚愕致した次第です。

10月の小松高祭では3年生が進路決定の大事な時期ということもあり、催しものに飲食物はNGでした。みんなで話し合い、キャンパス体験、火起こしと新づくりとロープワークと水引細工体験とその販売を行うことになりました。準備も日程の都合で2回しか集まるということが出来ませんでした。火起こしは弓切り式という木同士の摩擦熱で火種を作る方法なのですが、皆で練習したときは前会長の藤原さんだけが成功し、ほかは誰も火を起こせませんでした。当日誰も火を起こせなかったらどうしようと思念していましたが、当日は多くの生徒が粘り強く頑張つて、ほとんどが成功していました。水引細工体験も絶え間なく生徒が訪れて、楽しんでいました。

小松高祭の翌週はウォークラリー大会でした。当初は給水所のお手伝いだけの予定でしたが、多数の方に協力頂いたため私を含め、男性チームは声かけをしながら生徒と一緒に24km、女性チームも給水所から10kmを歩きました。当日は汗が出るほど晴天に恵まれ、我々は5時間歩いてゴールしました。

この2年間多くの行事やイベントが延期、または中止を余儀なくされてきましたが、今年度のPTA活動を振り返りますと当然コロナ前のような活動とはいきませんが、本日に活動目標の「BE HERE NOW」今、出来ることを全力で!!」通りの活動となったのではないかと思います。

最後に今年度PTA活動があったからだとお思います。皆様と教職員の方々の協力があったからだと思います。一緒に楽しく活動できる仲間と出会えたこと、いつも全面的に協力して下さいました教職員の皆様、に感謝しております。今年度一年間、本当に有難うございました。

I will miss you.

教頭 園部 孝行



私は、シアトルの友人からもらったジャンパーを大事にしている。

モニクの夫は高校の数学教師。私が毎朝ジョギングをすると言ったら、一人で出歩くのは危険だから、勤務先の陸上競技場を走るのが安全で良いと言ってくれた。高校までは約1000m、あまり、途中すれ違う人々に、Good morningと声をかける。見慣れない日本人ということもあってか、何か不思議な視線を感じた。AM6:00、なだらかな坂道を走ると吐く息が白い。日本では見られない4車線の広い道、閑静な住宅街、側道には背の高い街路樹、その葉が朝日を浴び目覚めていた。高校に到着してその敷地大きさに驚いた。校舎、施設もとても立派だった。陸上競技場内はクッション性のある本格的な仕様になっていた。走る鼓動、駆け抜ける足音、風を切る音、なんと心地が良いのだろう。トラックを10周目過ぎるころには、薄っすら額に汗がにじんで、朝日の光が丁度、針葉樹の木々の間から差してきた。なんと美しい景色だろう。

モニクのクッションはとても広く、大人が何人立つても手狭にならない。そして、そのクッションにはガスコンロ、シンクが機能的に配置され、食材を切る場所が良く実に使いやすかった。包丁、鍋、計量スプーンなど多くキッチン用品も、綺麗に棚に収納されていて感心した。奥の大きな収納スペースには、数えきれないくらいの保存食料や調味料が店の陳列棚のように置かれていた。そのキッチンから続くリビングにも、広いテーブルと、傍らにゆつくり腰をかける寝てしま

いそうなくらいゆつたりしたソファが備えてあった。私は、初日の夜、日本から持参した折り紙で折った誕生日メダルは、冷蔵庫の扉に磁石で張り付けるほど喜んでもらった。夕食後は毎回、私の得意の洗い片づけも楽しく行った。いつも我が家でしていることなのに、モニクは「Takayuki Thank you so much.」と毎回言ってくれた。メキシコ出身のモニクの料理は、それまで食べたことのないスパイシーな味で美味しかった。モニク夫妻は料理、食事をすると言うより、コミュニケーションを第一に考えていると思つた。滞在2日目にもなると、私も楽しく玉ねぎやトマトを切つて、彼女の料理作りを手伝った。手慣れない包丁で、手も切ったが、モニクと一緒にそれから毎日料理を楽しんだ。冷蔵庫の中の食材が品薄になると、近くのスーパーに買い出しにも行った。滞在中、夫妻が楽になること喜んでくれることを精一杯行い、私自身も得意の家事炊事を思う存分に楽しんだ、あつという間の2週間になった。

帰国する日、夫婦そろってシアトルのタコマ国際空港まで車で見送ってくれた。この日も底冷えがする日だった。車から降り、スーツケースを持ち、空港の入口に向かい、最後のお別れの言葉「サヨナラ」を言おうとした時、彼は私の背後に来て、着ていたジャンパーを脱ぎ、それを私の肩にかけてくれた。そして、モニクはアメリカ流であるハグをして、そつとささやいた。「I will miss you.」

帰りの機内で、2週間の出来事に思いをはせていた。

私たちが、より感動の多い人生を送りたければ、感動させる側になることだと確信した。滞在期間の私の時間をモニク夫妻のために惜しまず使った。そのことが私の深い感動につながったのだと思う。

体育大会

9月7日(水)、天候に恵まれ、元気がつばい、お互いのグループを称える姿も見られた、素晴らしい体育大会となりました。

- 総合優勝
〈紅炎〉グループ
- 応援優勝
〈青風〉グループ
- 競技優勝
〈紅炎〉グループ
- 装飾優勝
〈紫雲・紅炎〉グループ



小松高祭

10月28日(金)、今年度は、『Get over』を生きる自分たちで〜をテーマとし、生徒の学習活動や部活動の成果を発表し、豊かな情操を身に付けるとともに、プレゼンテーション能力を育てることを目標に以下の行事を行いました。

- 日本音楽部による演奏、創立115周年今久保宏美さん&吹奏楽部ジョイントコンサート
- ライフデザイン科3年生によるファッションショー
- 文化部・各種委員会・生徒会・クラスによる作品展示・研究発表
- クラス・3校合同魅力推進事業・PTAキヤンプ体験、水引細工体験

いずれも充実した内容で、日頃の学習や活動の成果を存分に発揮することができました。協力いただいた東予・丹原高校の皆さん、PTA常任員の皆様、ありがとうございました。



KOMATSU ウォークラリー

11月4日(金)、今年で12回目を迎えたウォークラリー大会。
 目的は、①長時間粘り強く歩く(走る)ことにより、自分自身の弱い心や甘い気持ちに打ち勝つ「精神力」を養成すること、②完歩・走破することにより、日常生活では体験できない体力的・精神的な自信を培うこと、③自然の中を歩くことにより、郷土の自然の良さを知ること、④地域の人の触れ合いや仲間との協力を通して、社会道徳などを身に付けることです。
 今年は自主的にゴミを拾いながらエコウォークする善行も顕れ、それぞれのペースで楽しく取り組むことができました。コース途中、給水所のお手伝いやスタートからゴールまで招待選手として一緒に完歩してくれた保護者の皆様に感謝申し上げます。PTAの水分補給や交通整理のお蔭で生徒の心を育む充実した大会となりました。



四国大会以上の活動報告

男子バレーボール部が第75回四国高等学校バレーボール選手権大会に出場し、優勝した坂出工業に善戦しました。
 また、第77回国民体育大会いちごこ会とちぎ国体バレーボール少年男子の部に栗山弥葵・松下創太さんが選ばれ、10月7日(金)～10日(月)まで熱い戦いを繰り広げました。



1月28日(土)・29日(日)に開催された県高校新人大会において男子バレーボール部が準優勝しました。選手は最後まで粘り強く戦い抜き、四国大会出場を決めました。3月18日(土)・19日(日)に高知県春野運動公園体育館で開催されます。応援よろしくお願いします。

7月16日(土)・17日(日)に、高知・くろしおアリーナで行われた四国高校総体水泳競技に、3年塩見頼生さんが出場しました。
 200m自由形で上位8名の決勝進出に向けて、29名中10位と健闘しました。



栃木国体の文化プログラム「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」が10月15日(土)・16日(日)の両日、宇都宮市の日環アリーナ栃木で開催され、中四国地区代表で3年三浦歩夢さんが出場しま

した。結果は、1勝1分1敗。2位の選手に勝ち点2及ばず、決勝トーナメント進出とはなりませんでしたが、来年度からは、オーブンの部での出場を目指しています。小松高校サッカー部としての出場は最後になりましたが、全国優勝目指して頑張っていきます。



11月13日(日)に愛媛県武道館で実施された全国高等学校空手道選抜大会愛媛県予選会にて、本校2年・一色明生さんが女子形の部で3位入賞を果たし、12月高知県で開催された四国大会へ出場しました。



8月4日(日)に東京・江戸川区総合文化センターで実施された、とうきょう総文2022に、総合体育文化部の3年・秋山美結さんと2年・村上風華さんが参加しました。
 西条高校生と本校生2名が吟じ、松山北高校と今治西高校の生徒が舞う合同チームで、構成吟「花」を披露しました。
 11月20日(日)に愛媛県民文化会館で



開催された、第36回県高文祭の吟詠剣詩舞部門に総合体育文化部の2名が出場し、独吟の部で2年・村上風華さんが優秀(個人1位)を受賞しました。
 また、2年・秋山遥香さんとともに松山北高校・今治西高校との合同チームとして優秀賞を受賞、来年7月31日に鹿児島県で開催される2023かこしま総文(7月29日～8月4日)に出場が決定しました。



12月26日(月)に第8回全国ユース環境活動発表大会四国地方大会に出場しました。本校で取り組んでいる竹林整備活動「コンポストプロジェクト」を情報発信するとともに、広報するアクションを学び、四国大会に選ばれた他校生との交流会を通して連携し、お互いを高め合うことができました。この連携を大切に、循環型社会の実現に役立てたいと思います。四国大会で優秀賞をいただいたのは、地域の皆様の御協力の賜物だと感謝しています。
 私たちYST (Youth Service Team) は、金融エコノミクス甲子園(敢闘賞)、EGFキャンパスアワード(ビジネスプラン努力賞)などサービスマーケティングを実施しています。これからも田舎の魅力や古民家ボランティア活動をビジネスに繋げる課題に挑戦していきます。
 第四二回全国高校生読書体験記コンクール 全国中央入賞
 二年 曾我部 愛
 県内22校3265点の応募から各校内審査で選ばれた53作品が審査され、見事優良賞を受賞しました。また、全国中央入賞八編に選出され、一ツ橋文芸教育振興会賞を受賞することができました。
 私が一番に言いたいことは、私が読書感想文で県の最優秀賞を受賞できたのは、全てが私の才能ではないということです。
 みんなが私を褒めてくれます。私も私を褒めます。称えます。私はすごいでしょう。ですが本当にすごいのは、私の作文を選んでくれた先生、それを添削してくれた先生です。だから私は先生方にとっても感謝しています。
 私がほしいしんじゅつ「ぶんりん乗り」という本で感想文を書くことと似た特別な理由はありません。本棚から見るとこの本が特別に思えました。これだと思いました。中学生の頃に読んだままでしたが、内容は覚えていません。私はどの本も再読は苦手なので、この本を読みなおすことはしませんでした。この本と私の兄弟事情を絡めたことが一番の勝因だと思います。

